

「大学生がつくる女性起業家年鑑」出版プロジェクト 活動報告

石川 航平¹

Report on Publishing Project of “The Almanac of Women Entrepreneurs Created by College Students”

Kohei Ishikawa

1. 研究目的

現在、女性活躍推進が必要とされているが、依然として働き方における不平等とキャリアの不確実性が存在している。出版業界においても、このような状況を打破するためにビジネス分野においてコンテンツを提供できる女性著者の発掘が強く求められている。また、どの業界の働き方においても、女性リーダー、マネージャーの教育の必要性となっており、またマネージャーではない職務に関してもフォロワーシップが求められるなど、ダイバーシティを前提とする働き方に関する議論は尽きない。出版業界に身を置く立場から著者の執筆活動の支援や出版活動のコンサルティングを行ってきたが、女性の活躍の具体的なケースを理解し、大学生、および社会人 1~3 年目でも理解できるようなコンテンツの開発が必要であることを痛感している。そのため本年度は「大学生がつくる女性起業家年鑑」制作プロジェクトを実施した。本研究の目的は、女性起業家の取材を通じて、その知恵をコンテンツとして社会に発信することである。また、そのインタビューを学生が行うことにより、より新規性かつ独創性のあるコンテンツを引き出すことを狙いとした。学生自身が自ら取材を行うことにより、主体的に情報を獲得する能力を養い、長期的なキャリアに対応しうる素養や資質を身につけることが重要である。具体的には、「物事に関して論理的に説明する力」「課題に対して事前に予測し対処し責任を取る力」を養うことを目的とした。

本研究²は経営学、教育工学という学際的な領域である。実験的な要素は多いものの、実務的な知識を、労働経験の少ない学生が学習する知識の移転という点で、新規性のある研究対象である。研究の技法としては、対象分野に対して、複数回の取材を行うことによってそのアントレプレナーシップ理解し、就業経験のない学生の立場からでもそのビジネスモデルを理解できる力を付ける。その後女性起業家に対して、インタビューを行った。制作において、テープ起こしや編集は高度な専門技術であるため、学生には「読者目線に立って文章を書く」点に重きを置いた。

¹ 昭和女子大学 現代ビジネス研究所 研究員

² 本研究は 2019 年度現代ビジネス研究所の助成金を受けたものである。

2. 研究方法

プロジェクトには13名が集まった。実際に学生が女性起業家にロングインタビューを行った。それぞれの過程で、学生にとって、どのような意識の変容があったかを通じて、いかに創造性が引き出されるかを調査研究の対象とした。取材対象は大きく分けて、9つに分類を行った。

・料理・ファッション・英語・美容・健康・心理・キャリア・おもてなし・スポーツ
具体的に登壇していただいた方の名前と職業を記載する。

[五十音順 (名前の公開を許可いただいた方のみ掲載)]

小俣荘子さん ライター、桑野麻衣さん 作家・研修講師、澁谷まりえさん コンサルタント、新条正恵さん 作家、桜井希和子さん コンサルタント、菅野のなさん 作家

3. プロジェクトの成果報告

本研究の期待される効果としては、学生自身が自ら取材を行うことにより、主体的に情報を獲得する能力を養い、長期的なキャリアに対応しうる素養や資質を身につけることを狙った。共同研究者や企業から、一つの答えを与えるのではなく、複雑なビジネスの過程には複数の回答があり、その中から自ら課題を見つけることを促す。そして、グローバルビジネスに限らず、出版に関わる文学、現代教養、また書籍をデザインする環境デザイン学科などの学生からも公募をすることから、人文学・社会科学・自然科学といった学問の体系を網羅し、大学ならではの分野横断的な学生のつながりをつくることを目指した。結果として、4学科から応募があった。そのつながりからは、単一の学部教育からはなされない高い教養への意識や他の分野の学生と関わるダイバーシティの視点を身につけることができることが想定された。また、本研究にて、扱われるビジネススキームや情報技術の活用事例は、いずれも実務においては最先端のものであり、高度な創造活動の事例としても、幅広い範囲で読まれる知的成果物を生み出す余地がある。

4. 女性起業家に対する取材の実施



写真1：取材の様子

女性起業家に対する取材は合計 8 回行われた。学生自身で、取材の要諦を考え、事前に準備した質問を行った。学生のプロジェクトメンバーは 15 名であった。取材時間の合計数は、15 時間を超え、2020 年 2 月時点で、書籍 2 冊分相当の原稿が上がっていた。

5. 今後の出版に向けて

すでに 1000 人以上のコミュニティを持つ女性起業家 800 名以上とのコンタクトが行われており、日本の女性文化の節目として、本研究を学術的な出版へと昇華させたい。また、本研究は、当初から、学術的な研究のねらいを持っている。2020 年 12 月には、第 19 回アジア太平洋カンファレンスにて、アジア太平洋におけるガバナンス(政治、経済、ビジネス、環境)という文脈の中の「知的水準のダイバーシティ」というテーマの中でポスター発表を予定したい。また、2021 年度の教育工学、学習科学における国際学会 ICED2021 に、教授システム学の中で、査読論文としての発表を目指したい。

6. 謝辞

報告のレポートに代えて、株式会社 J ディスカヴァーを中心とする出版業界の方々、また、それ囲む女性起業家の方々、そして、本研究の主役である学校法人昭和女子大学の学生の皆さまへ厚く御礼を申し上げます。本研究は、プロジェクトリーダーの私ひとりのものではなく、多くの読者へ向けたものである、と歴史の節目である令和元年に行えたことを心より誇りに思います。また、本研究の熱量を受け止めてくださった現代ビジネス研究所の皆さまと共同研究者の飛田史和先生にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

【参考文献】 スーザン A. アンブローズ (著) マイケル W. ブリッジズ (著) ミケーレ ディピエトロ (著) マーシャ C. ラベット (著) マリー K. ノーマン (著) 栗田佳代子 (翻訳)(2014) 大学における「学びの場」づくり (高等教育シリーズ) 玉川大学出版部.